

第十六回茶話会

6つの死生観

2024年6月30日

第十六回の目次

- はじめの諸注意
- 死生観の6つのパターン
- 私の死生観
- 各パターンの考え方
- 日本のお盆から見る死生観の混じり合い

- 死生観の色々な例（追加の参考事例）
- さいごに

はじめに

□ 諸注意

□ 死生観には1つの答えはない

地域・信仰・民族などの要因で様々な答えがある

□ 今回の講義内容は引用文献に依る所が大きい

『死んだらどうなるのか？死生観をめぐる6つの哲学』（2019年）

著者：伊佐敷隆弘

□ 他宗教に関する内容など間違いがあればご指摘ください

死生観

- 死と生についての考え方。
生き方・死に方についての考え方。
(広辞苑)
- 年代や性別を問わず、人間としてどうしても取り組まなければならない切実な課題
(by. アルフォンス・デーケン)

死生観の6つのパターン

- 1.他の人間や動物に生まれ変わる
- 2.別の世界で永遠に生き続ける
- 3.すぐそばで子孫を見守る
- 4.子孫の命の中に生き続ける
- 5.自然の中に還る
- 6.完全に消滅する

自分の死後、自分はどうなるのだろうか？

グループワーク

□ 自分の死生観を分析しよう

もし自分が死んだら、その魂はどこへ行くのでしょうか？

Q1. 自分の死生観はどのパターンに当てはまりますか？
複数当てはまるなら何%ずつでしょうか？

Q2. 自分の信仰はどこに属していますか？
(仏教？神道？キリスト教？ 地域や所属など)

私の死生観

□ 私の属性

仏教 臨済宗 妙心寺派（禪宗） 35歳

電気通信大学卒

円覚寺修行

インド日本寺駐在1年

円覚寺本山勤務

宝樹院5年

私の死生観

□ 私の死生観

- 10% 1.他の人間や動物に生まれ変わる
- 50% 2.別の世界で永遠に生き続ける
- 40% 3.すぐそばで子孫を見守る
- 4.子孫の命の中に生き続ける
- 5.自然の中に還る
- 6.完全に消滅する

死生観の分類

- 1.他の人間や動物に生まれ変わる
→輪廻転生（ヒンドゥー教・仏教など）
- 2.別の世界で永遠に生き続ける
→極楽浄土（大乘仏教）、天国(一神教)、道教
- 3.すぐそばで子孫を見守る
→古神道、神道
- 4.子孫の命の中に生き続ける
→儒教
- 5.自然の中に還る
→最も古い考え方、散骨など
- 6.完全に消滅する
→唯物論、自然科学

1.他の人間や動物に生まれ変わる

□ ヒンドゥー教 輪廻転生

因果論により生まれ変わる先が決定する
四十九日の生と死の間の期間（中有）を経て、
この世のどこかに転生する

□ 仏教 輪廻転生

輪廻を繰り返し、悟りを得て解脱をする
六道輪廻の中では天道でも地獄でも寿命があり、再び転生をする
（大乘仏教では万人の往生を約束する為、あまり意識されない）

□ （神道 古事記 ヤマトタケルの白鳥への生まれ変わり）

2.別の世界で永遠に生き続ける

仏教・道教・一神教（キリスト教・イスラム教・ユダヤ教）が該当する

□ 大乘仏教

修行を積み少しずつ悟りへ近づきながら輪廻する

幾度とない転生の後に阿羅漢となって悟りに至り、涅槃し解脱する

解脱は肉体からの開放と共に、浄土への往生であり、浄土では寿命が無い

大乘仏教では衆生済度の信念が生まれ、

本来仏である教えや、阿弥陀信仰によって**皆が浄土へと導かれる**

2. 別の世界で永遠に生き続ける

仏教・道教・一神教（キリスト教・イスラム教・ユダヤ教）が該当する

□ 道教

死後を語らない儒教と異なり、**死者の国のイメージ**を持っていた

現実と変わらないシステムで国が管理されていて、戸籍に対応するものとして鬼籍という概念が作られた（鬼籍は現在では過去帳などを指す）

地獄の観念を生み、閻魔大王が誕生した教えである

法事がインドの四十九日から、道教によって三回忌まで延長された

2. 別の世界で永遠に生き続ける

仏教・道教・一神教（キリスト教・イスラム教・ユダヤ教）が該当する

□ 一神教

神によって塵から作られた人間は、死後 塵に還る

魂は最後の審判を受けて天国か地獄に割り振られ、生前の状態で次の世界を永遠と生きる事となる

人が塵の状態となっても、神には記録が集まっており、そこから復活が可能これを以って生き続けていると捉える

仏教の地獄と異なり、審判は覆すことが出来ない

日本人の2%がキリスト教であり、150年前から浸透してきた為、死生観や文化への影響どは少なくない

3. すぐそばで子孫を見守る

□ 神道

712年の古事記から記録が残る民間信仰

イザナギとイザナミの物語に黄泉の国の話がある

黄泉の国は地下に存在し、イザナギが大岩で塞いだことで徒歩で行けなくなったとされる

黄泉の国には死者が生前と同じ関係性のまま存在する

仏教伝来以前の神道を、以後と比較する為に古神道と呼ぶ

年に二度、先祖の霊が返ってくるとされ、弔いあげは30年目に行なわれた
仏教の弔いあげが3回忌から33回忌まで延長された由来とされる

3. すぐそばで子孫を見守る

□ 古神道

人は死ぬと肉体から魂が遊離し、精霊となって山を昇る

精霊には2つの性格があり、災いをもたらす荒魂、恵みをもたらす和魂

荒魂を供養する事で和魂となって、清められた精霊を祖霊という

歳月を経ることで祖霊は先祖神として昇華され、山中に鎮まる（産土の神）

現在まで続く 魂祭り（御魂祭や精霊祭り等ともいう）

祖霊や先祖神が年2回（正月とお盆の季節）山を下りて子孫に会いに来る

下りてきた和魂は福や恵みをもたらすとされ、供養や祭祀が執り行われる

4. 子孫の命の中に生き続ける

□ 儒教

論語 先進第十一より

未だ人間としての生き方が分からないのに、どうして死の事が分かるだろうか

死後の名言は無く、「孝」を説く

政治学に寄った教えで、親から子への継承や孝行が重要（出家ダメ）

曾祖父までの先祖の位牌（その原型の木主）を自宅の祭壇に祀る

魂の関係性(親子)は変わらない、先祖のおかげで自己が存在し、脈々と歴史の記録を残す事でそれが続いていく

継承と記録によって死よりも生が重要視された教えである

5. 自然の中に還る

□ 古代からの思考と思われる

人が死後に自然(≡大いなる生命)に還る時、宗教色を排した場合はここに該当するのではないだろうか？

自然から生まれ、自然に還る (≡生き続ける)

自分を構成する分子の循環や大いなる流れは諸行無常の考えにも近いだろう

人間同士だけでなく周りの地球環境とも縁を拡げた考え方

日本の歴史の中にも詩歌などに詠まれる

楽曲：千の風になって

6.完全に消滅する

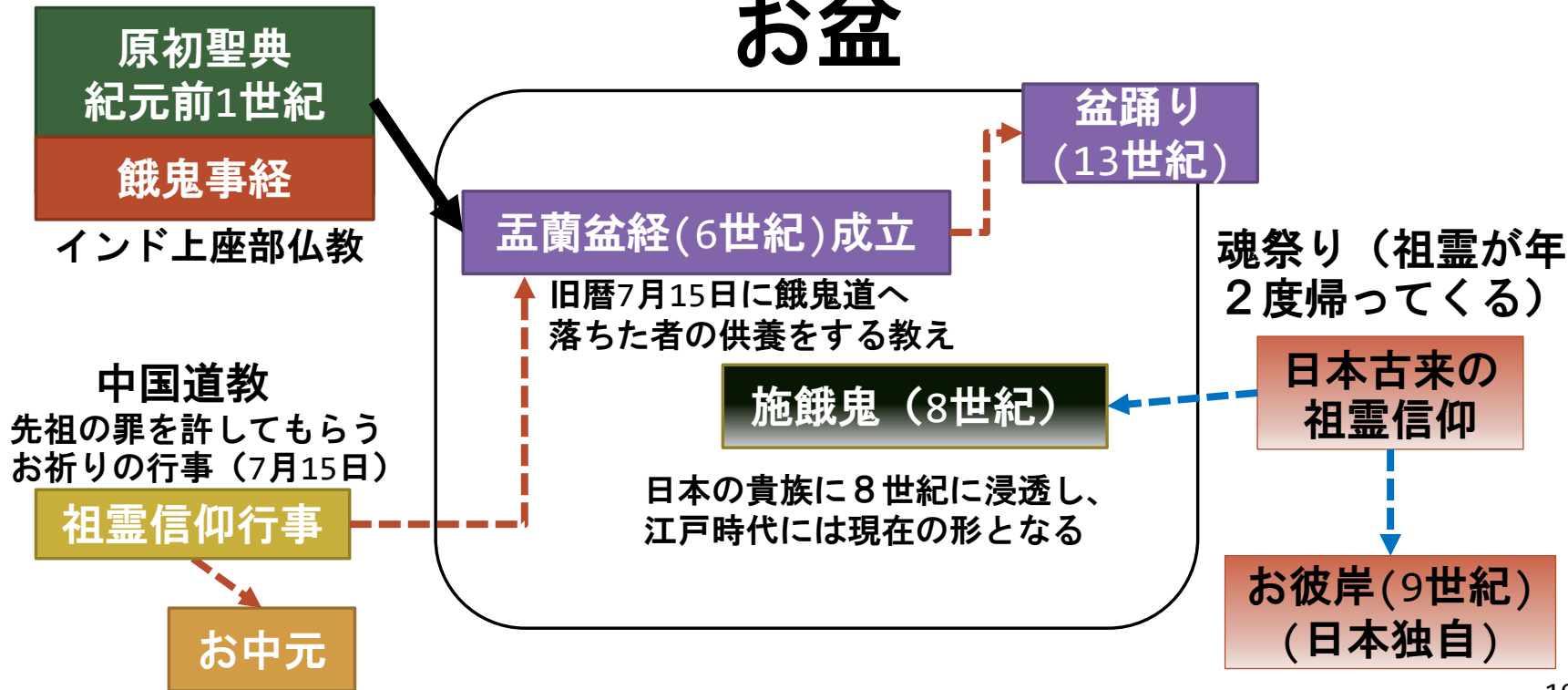
□ 自然科学 唯物論

脳内の電気信号と化学物質の流れが意識であり、心そのものである
脳が停止すると、心は失われてしまう
人の死後、物質としての身体以外何も残らないという考え方

心身問題 という未解決の伝統的哲学問題を抱えている
我思う故に我あり(by.デカルト)の主観的感情の見え方と
第三者から観察した脳内のニューロンネットワークの見え方の
差を埋めることが出来ない

お盆（第8回より）

お盆



お盆の死生観の混じり合い

- 輪廻転生(1.他の人間や動物に生まれ変わる)
仏教世界の根幹、解脱の前の状態。
餓鬼事経の1つの話では、舍利弗の4つ前の生での母親を救う話がある。
- 祖霊信仰(2.別の世界で永遠に生き続ける)
道教：先祖の罪を許してもらったための祈りの儀式が仏教と習合した。
盂蘭盆経は目連が自身の母を地獄の餓鬼道から救う話。(7月15日)
- 御魂祭(3.すぐそばで子孫を見守る)
先祖の魂が返ってくるという話は、仏教・道教・施餓鬼には無い。

死生観の例

1. 他の人間や動物に生まれ変わる

□ チベット仏教

輪廻転生

ダライラマ法王は観音菩薩の生まれ変わりで、転生を繰り返していると信じられている。

映画「セブン・イヤーズ・イン・チベット」にて、後継者探しの様子が描かれる。前世の記憶を保持している事を、先代の遺品や、先代の身近な人物を見分けさせるなどして選出する。

同映画にて、工事現場のミミズを1匹1匹大事に逃がす作業員が「あなたのおばあさんかもしれない」と工事が遅々として進まない描写がある

死生観の例

1. 他の人間や動物に生まれ変わる

□ 禅

大乘仏教の1つであり、衆生済度の思想がある反面で、不立文字教外別伝の思想のもとで自己研鑽による修行の境地を目指す、高僧は死後の世界での教化に旅立つ。

「私たちは仏心という広い心の海に浮かぶ泡の如き存在である。

生まれたからといって仏心の大海は増えず、死んだからといって、仏心の大海は減らず。私どもは皆仏心の一滴である。一滴の水を離れて大海はなく、幻の如きはかない命がそのまま永劫不滅の仏心の大生命である。

人は仏心の中に生まれ、仏心の中に生き、仏心の中に息を引き取る。生まれる前も仏心、生きている間も仏心、死んでからも仏心、仏心とは一秒時も離れていない」

(朝比奈宗源老師の言葉 横田南嶺老師の「管長日誌」より)

死生観の例

2. 別の世界で永遠に生き続ける

□ 古代ギリシャ哲学

ソクラテスとプラトンの霊魂不滅説

よき人の魂は死後に肉体を離れ、完全な形で幸福を得るべく、新たな存在の次元へと赴いていく。生きているあいだは肉体と肉体を取り巻く物質界に縛られているが、人は死に至ってはじめて、真実のすべてを知ることができるようになり、希望するすべてのことが叶えられる。（「パイドン」より）

さいごに

「より良き死のために」より中盤まで要約

□ 科学的な根拠がないとしても・・・

重病にかかり「放っておくとあと数日しか生きられない。しかし手術をすれば助かる公算が大きい」と言われた時、確率が100%でないなら、手術を受けないだろうか？ 命が助かる可能性を無視するのだろうか？

死後の世界、死後の生命についても、誰にも確率は分からず、科学的な根拠もない。「しかし、時代や地域や宗教を超えて、『死後の生命』が語られています。それをまったく無視してしまうのは理性的な態度ではないと思います。
(抜粋)」

『目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された』
(新約聖書 コリントへの手紙第二章より)

参考文献

書籍

- 死んだらどうなるのか? をめぐる6つの哲学
著者：伊佐敷隆弘

- より良き死のために
著者：アルフォンス・デーケン

映画

- セブン・イヤーズ・イン・チベット

ホームページ

- 神道国際学会

- 真言宗智山派

総本山智積院HPより

『現代密教』 第23号

ラジオ (Podcast)

- 世界の宗教が捉える死と死後の世界をめぐる考察と宗教間の美しき不調和

【COTEN RADIO #264】